

第八五號	大正一五、五	陪審制度視察報告書集(附)が るその教授速陪審制度論	第一〇二號	昭和	二、二	公の秩序に對する犯罪に關する 比較法論(其二)
第八六號	一五、五	刑罰に關する制度(其三)	第一〇三號	〃	二、二	英國陪審の組織資格選定召集等 に關する省取調委員會報告書 第二卷(其二)
第八七號	一五、六	正義と貧民(其一)	第一〇四號	〃	二、三	司法ニ關スル法制
第八八號	一五、七	正義と貧民(其二)	第一〇五號	〃	二、三	司法行政上より見たる普國區裁 判所の實務(第四篇)
第八九號	一五、七	刑罰に關する制度(其四)	第一〇六號	〃	二、四	司法行政上より見たる普國區裁 判所の實務(第五篇)完
第九〇號	一五、八	刑罰に關する制度(其五)	第一〇七號	〃	二、四	保安處分
第九一號	一五、八	英國に於ける警察裁判所	第一〇八號	〃	二、五	陪審裁判所に於ける發問(總則 篇)
第九二號	一五、九	司法行政上より見たる普國區裁 判所の實務(第三篇)	第一〇九號	〃	二、五	陪審裁判所に於ける發問(各論 篇)
第九三號	一五、九	刑罰に關する制度(其六)完	第一一〇號	〃	二、六	ケイト・ウエブスター事件の陪 審裁判(英國著名裁判 其一)
第九四號	一五、一〇	英國陪審の組織資格選定召集等 に關する省取調委員會報告書 第二卷(其一)	第一一一號	〃	二、六	單獨判官と司法官制
第九五號	一五、一〇	諸外國に於ける辯護士制度概觀	第一一二號	〃	二、七	國際行刑會議報告書集(三)
第九六號	一五、一一	歐洲諸國に於ける上訴制度	第一一三號	〃	二、七	國際行刑會議報告書集(四)
第九七號	一五、一一	佛國裁判制度 第一(治安裁判 所の組織及權限)	第一一四號	〃	二、八	佛國刑事裁判所の組織及び司法 警察
第九八號	一五、一二	佛國裁判制度(地方裁判所、控 訴院、大審院の組織及權限)	第一一五號	〃	二、八	チエツコ・スロウアキア共和國 の刑法典草案及同理由書(總則 篇)
第九九號	一五、一二	國際行刑會議報告書集(一)	第一一六號	〃	二、九	米國の勞働法制(上)
第一〇〇號	昭和	國際行刑會議報告書集(二)				
第一〇一號	〃	公の秩序に對する犯罪に關する 比較法論(其一)				

第一二七號	昭和	二、九	米國の勞働法制(下)	第一三二號	昭和	三、九	ソワイエツト露西亞の法制(前 篇)
第一二八號	〃	二、一〇	刑法草案集(瑞西一九一八年案、 奧一九二二年案、伊一九二二年 案)	第一三三號	〃	三、一〇	ソワイエツト露西亞の法制(後 篇)
第一二九號	〃	二、一〇	チエツコ・スロウアキア共和國 の刑法典草案及同理由書(各 論篇)	第一三四號	〃	三、一一	限定責任能力者社會上危險なる 精神病者及犯罪の常習飲酒者に 對する處遇
第一三〇號	〃	二、一一	佛國陪審に於ける發問の方式と その判例	第一三五號	〃	三、一二	治安判事論
第一三一號	〃	二、一一	賭博に關する調査	第一三六號	〃	四、一	各國政府の報告に據る私生子の 地位に關する研究
第一三二號	〃	二、一二	佛國の檢察制度	第一三七號	〃	四、二	刑の量定(前篇)
第一三三號	〃	二、一二	フレデリック・バイウオーター ス及エデイス・トムソン事件の 陪審公判(英國著名裁判 其二)	第一三八號	〃	四、三	刑の量定(後篇)
第一三四號	〃	三、一	一九二七年獨逸刑法草案並に理 由書(總則篇)	第一三九號	〃	四、四	佛に於ける家族制の變遷
第一三五號	〃	三、二	大逆罪に關する比較法制資料	第一四〇號	〃	四、五	陪審裁判手續に關する間(前篇)
第一三六號	〃	三、三	一九二七年獨逸刑法草案並に理 由書(各論篇)	第一四一號	〃	四、六	陪審裁判手續に關する間(後篇)
第一三七號	〃	三、四	刑法改正に關する比較法制資料 (前篇)	第一四二號	〃	四、七	德川禁令考後聚(第一帙)
第一三八號	〃	三、五	刑法改正に關する比較法制資料 (中、後篇)	第一四三號	〃	四、八	獨逸司法制度(前篇)
第一三九號	〃	三、六	佛國裁判所ノ構成ニ關スル法令	第一四四號	〃	四、九	獨逸司法制度(後篇)
第一四〇號	〃	三、七	米國裁判所の組織及び訴訟手續	第一四五號	〃	四、一〇	ソワイエツト露西亞民法(前篇)
				第一四六號	〃	四、一一	ソワイエツト露西亞民法(後篇)
				第一四七號	〃	四、一二	アメリカ合衆國に於ける少年裁 判所
				第一四八號	〃	五、一	ソワイエツト露西亞刑法

第一四九號	昭和	五、二	ソヴェエト露西亞裁判所構成 法 刑事訴訟法 行刑法
第一五〇號	〃	五、三	英米獨佛の手形法及小切手法
第一五一號	〃	五、四	德川禁令考後聚(第二帙)
第一五二號	〃	五、五	佛國民商事裁判管轄
第一五三號	〃	五、六	佛蘭西に於ける檢事の職務
第一五四號	〃	五、七	獨逸刑法及ひ行刑法施行法草案
第一五五號	〃	五、八	獨逸刑法及ひ行刑法施行法草案 理由書
第一五六號	〃	五、九	國際行刑會議報告書集 五
第一五七號	〃	五、一〇	國際行刑會議報告書集 六
第一五八號	〃	五、一一	國際行刑會議報告書集 七
第一五九號	〃	五、一二	德川禁令考後聚(第三帙)
第一六〇號	〃	六、一	少年保護司指針
第一六一號	〃	六、二	米國イリノイ州に於ける不定期 刑言渡りに假釋放に關する調査 一九二九年末現行カリホルニヤ 州刑法(前篇)
第一六二號	〃	六、五	州刑法(後篇)
第一六三號	〃	六、七	佛國司法制度(前篇)
第一六四號	〃	六、八	佛國司法制度(後篇)
第一六五號	〃	六、九	佛國司法制度(後篇)
第一六六號	〃	六、一〇	德川禁令考後聚(第四帙)
第一六七號	昭和	七、一	支那歷代刑事法制的思想 上卷 ①大學衍義補-慎刑憲篇
第一六八號	〃	七、二	支那歷代刑事法制的思想 下卷 ②大學衍義補-慎刑憲篇
第一六九號	〃	七、四	司法事務の經費節減、簡易化及 促進(獨逸裁判所書記同盟の改 革案)
第一七〇號	〃	七、六	德川禁令考(第一帙)
第一七一號	〃	七、八	刑事事件集(附) 刑事事件起按 小手引
第一七二號	〃	七、一〇	ソヴェエト法の理論
第一七三號	〃	七、一二	德川禁令考(第二帙)
第一七四號	〃	八、三	德川禁令考(第三帙)
第一七五號	〃	八、五	民事事務修習の案
第一七六號	〃	八、八	德川禁令考(第四帙)
第一七七號	〃	八、九	一九三一年獨逸新民事訴訟法草 案並に說明書(一)
第一七八號	〃	八、一〇	一九三一年獨逸新民事訴訟法草 案並に說明書(二)
第一七九號	〃	八、一一	搜查事務に就て
第一八〇號	〃	八、一二	德川禁令考(第五帙)
第一八一號	〃	九、一	獨逸刑法第一讀會終了(一九三 〇年)
第一八二號	〃	九、二	犯罪生物學原論
第一八三號	〃	九、四	德川禁令考(第六帙)

第一八四號	昭和	九、五	ナチスの刑法(プロシヤ邦司法 大臣の覺書)
第一八五號	〃	九、七	プロシヤに於ける司法官教育關 係法令彙纂
第一八六號	〃	九、八	英國に於ける裁判と警察
第一八七號	〃	九、九	德川 民事慣例集(人事ノ部) 時代
第一八八號	〃	九、一〇	一九三二年フランス刑法改正豫 備案(總則)並にポランド違警罪法 改正刑法及ポランド違警罪法
第一八九號	〃	九、一一	取締法規違反の定型(附)特別 刑法に於ける犯罪主體と刑罰主 體の異なる場合の歸納的觀察
第一九〇號	〃	九、一二	米國ユタ州に於ける不定期刑 言渡宣告猶豫及假釋放に關する 調査
第一九一號	〃	一〇、一	一九三〇年獨逸刑法草案並に現 行獨逸刑法典(附錄重要附屬法 令)
第一九二號	〃	一〇、二	德川 民事慣例集(動産ノ部) 時代
第一九三號	〃	一〇、三	獨逸裁判所構成法及同刑事訴訟 法
第一九四號	〃	一〇、四	一九二八年スペイン刑法
第一九五號	〃	一〇、五	ポランド新民事訴訟法(一九 三三年)
第一九六號	〃	一〇、六	獨逸刑法提要(上)
第一九七號	昭和	一〇、七	ソヴェエト・ロシヤは犯罪を 克服する
第一九八號	〃	一〇、八	伊太利刑法典
第一九九號	〃	一〇、九	伊太利刑事訴訟法典 附伊太利 重罪法院條例
第二〇〇號	〃	一〇、一〇	一九二二年第二回海牙萬國手 形法統一會議議事錄
第二〇一號	〃	一〇、一〇	一九二二年海牙に於ける爲替手 形及約束手形に付ての審査委員 會議議事錄
第二〇二號	〃	一〇、一一	中華民國刑法・刑事訴訟法
第二〇三號	〃	一〇、一二	ユーゴスラヴキヤ新民事訴訟 法
第二〇四號	〃	一一、一	獨逸刑法提要(中)
第二〇五號	〃	一一、一	德川 民事慣例 不動産ノ部(上)
第二〇六號	〃	一一、二	佛國刑事訴訟法
第二〇七號	〃	一一、三	伊太利刑事訴訟法典報告
第二〇八號	〃	一一、三	伊太利刑事訴訟法典報告
第二〇九號	〃	一一、四	佛國民事訴訟法改正草案
第二一〇號	〃	一一、四	米國に於ける指紋採取法 (附)法度を以て檢出したる潜 在指紋の定着方法(獨) 我 法省指紋原紙取扱規程並指紋分 類規程及同規程附表

第二一號
一、五
ナチスの法制及び立法綱要（刑法及刑事訴訟法の部）

14.5
54

終